

Title	弱順序極小構造上での連結性について (変換群論の新たな展開)
Author(s)	田中, 広志
Citation	数理解析研究所講究録 (2009), 1670: 72-76
Issue Date	2009-12
URL	http://hdl.handle.net/2433/141147
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

弱順序極小構造上での連結性について

阿南工業高等専門学校・一般教科 田中 広志 (Hiroshi Tanaka)

Anan National College of Technology

htanaka@anan-nct.ac.jp

概要

順序極小構造上におけるセルは definably connected であることが知られている。このノートでは、弱順序極小構造において definably connected に代わる概念として、weakly definably connected という概念を導入する。

1 はじめに

構造 $\mathcal{M} = (M, <, \dots)$ を端点を持たない全順序構造とする。

M の部分集合 A が、任意の $a, b \in A$ に対して、 $(a, b) \subseteq A$ をみたすとき、 A は M の凸集合であるという。さらに $\sup A, \inf A \in M \cup \{-\infty, +\infty\}$ のとき、 A は M の区間であるという。構造 \mathcal{M} の任意の definable 集合 $D \subseteq M$ が、区間 (または凸集合) の有限和で表せるとき、 \mathcal{M} は順序極小構造 (または弱順序極小構造) であるとよぶ。理論 T の任意のモデルが順序極小 (または弱順序極小) になるとき、 T は順序極小理論 (または弱順序極小理論) とよぶ。順序極小構造の理論は、順序極小理論になることが知られている。しかしながら、弱順序極小構造の理論は、必ずしも弱順序極小理論になるとは限らないことが知られている ([5])。

このノートでは、構造 \mathcal{M} はすべて弱順序極小構造とする。

2 Weakly definably connected

$C, D \subseteq M$ とする。任意の $c \in C, d \in D$ に対して $c < d$ のとき、 $C < D$ と書く。空でない集合の対 $\langle C, D \rangle$ が、 $C < D$ かつ $C \cup D = M$ でさらに D が最小元を持たないとき、 M の切断であるという。 \mathcal{M} の definable 切断全体を \overline{M} によって表す。任意の $a \in M$ に対して、definable 切断 $\langle (-\infty, a], (a, +\infty) \rangle$ を考えることにより、 $M \subseteq \overline{M}$ とみなす。

2000 *Mathematics Subject Classification.* 03C64.

Key words and phrases. Weakly o-minimal, definably connected, weakly definably connected.

さらに $\langle C_1, D_1 \rangle < \langle C_2, D_2 \rangle$ を $C_1 \subsetneq C_2$ と定義することにより, $(M, <)$ を $(\overline{M}, <)$ の部分構造とみなす。

M (または \overline{M}) 上に, M (または \overline{M}) の开区間を基本開集合として位相を入れる。

n を自然数とし, $A \subseteq M^n$ を definable とする。写像 $f: A \rightarrow \overline{M}$ において, 集合 $\{\langle x, y \rangle \in A \times M : y < f(x)\}$ が definable になるとき, f は **definable** であるという。写像 $f: A \rightarrow \overline{M} \cup \{-\infty, \infty\}$ が **definable** とは, f が A から \overline{M} への definable 写像であるか, 任意の $x \in A$ に対し $f(x) = \infty$ であるか, または任意の $x \in A$ に対し $f(x) = -\infty$ になるときをいう。

[7] に弱順序極小構造上でのセルの定義がある。

定義 1. 弱順序極小構造 $\mathcal{M} = (M, <, \dots)$ に対して, セルとその完備化を帰納的に定義する:

1. M の 1 点集合は **0-セル** とする。 $C \subseteq M$ が 0-セルのとき, その完備化を $\overline{C} := C$ と定める。
2. M の空でない definable 凸開集合は **1-セル** とする。 $C \subseteq M$ が 1-セルのとき, その完備化を $\overline{C} := \{x \in \overline{M} : \exists a, b \in C, a < x < b\}$ と定める。
3. $C \subseteq M^m$ が k -セルで $f: C \rightarrow M$ が definable で連続, さらに連続な拡張 $\overline{f}: \overline{C} \rightarrow \overline{M}$ をもつとき, グラフ $\Gamma(f)$ は k -セルとし, その完備化を $\overline{\Gamma(f)} := \Gamma(\overline{f})$ と定める。
4. $C \subseteq M^m$ が k -セルで $g, h: C \rightarrow \overline{M} \cup \{-\infty, \infty\}$ が definable で連続, さらに連続な拡張 $\overline{g}, \overline{h}: \overline{C} \rightarrow \overline{M}$ をもち, 任意の $x \in \overline{C}$ に対して $\overline{g}(x) < \overline{h}(x)$ のとき,

$$(g, h)_C := \{\langle a, b \rangle \in C \times M : g(a) < b < h(a)\}$$

は $(k+1)$ -セルとし, その完備化を

$$\overline{(g, h)_C} := \{\langle a, b \rangle \in \overline{C} \times \overline{M} : \overline{g}(a) < b < \overline{h}(a)\}$$

と定める。

5. ある $k \in \mathbb{N}$ が存在して, $C \subseteq M^m$ が k -セルとなるととき, C は**セル**とよぶ。

定義 2. $\mathcal{M} = (M, <, \dots)$ を弱順序極小構造, $m \in \mathbb{N}$, $X \subseteq M^m$ を空でない definable 集合とする。以下で, X の**セル分解**を m に関して帰納的に定義する。

1. X を M の空でない definable 部分集合で, $\mathcal{D} = \{C_0, \dots, C_k\}$ をセルによる X の分割とする。このとき, \mathcal{D} は X の**セル分解**であるという。
2. X を M^{m+1} の空でない definable 部分集合で, $\mathcal{D} = \{C_0, \dots, C_k\}$ をセルによる X の分割とし, $\pi: M^{m+1} \rightarrow M^m$ を最後の座標を除く射影とする。このとき, $\{\pi(C_0), \dots, \pi(C_k)\}$ が $\pi(X)$ のセル分解になるとき, \mathcal{D} は X の**セル分解**であると

いう。

定義 3. $\mathcal{M} = (M, <, \dots)$ を弱順序極小構造, $m \in \mathbb{N}$, $X, Y \subseteq M^m$ を definable 集合, $X \neq \emptyset$ とする。また \mathcal{D} を X のセル分解とする。このとき, 任意の $C \in \mathcal{D}$ に対して, $C \subseteq Y$ または $C \cap Y = \emptyset$ となるとき, \mathcal{D} は Y を**分割する**という。

定義 4. $\mathcal{M} = (M, <, \dots)$ を弱順序極小構造とする。任意の $m, k \in \mathbb{N}$ と definable 集合 $X_1, \dots, X_k \subseteq M^m$ に対して, X_1, \dots, X_k のすべてを分割するような M^m のセル分解が存在するとき, \mathcal{M} は**セル分解**を許すという。

セルの完備化は定義 1 で定義した。次に definable 集合の完備化を定義する。

定義 5. $X \subseteq M^n$ を definable とする。このとき, definable 集合 X の**完備化**を

$$\{a \in (\overline{M})^n : \text{あるセル } C \subseteq X \text{ が存在して, } a \in \overline{C}\}$$

と定義し, \overline{X} と書く。

$C \subseteq M^n$ をセルとする。このとき, セルの定義による C の完備化と上記の definable 集合としての C の完備化は一致する。

補題 6. $X, Y \subseteq M^n$ を definable, $x \in M^n$ とする。このとき, 次が成り立つ。

1. $x \in X \iff x \in \overline{X}$ である。
2. $X \subseteq Y \iff \overline{X} \subseteq \overline{Y}$ である。
3. \overline{X} が開集合ならば, X も開集合である。
4. \overline{X} が閉集合ならば, X も閉集合である。

次に, boundary point ([4, 定義 1.1]) および weakly boundary point を定義する。

定義 7. $X, Y \subseteq M^n$ を definable 集合とし, $\emptyset \subsetneq Y \subsetneq X$ とする。

1. $a \in M^n$ が X での Y の **boundary point** であるとは, $a \in X$, かつ任意の open box $U \subseteq M^n$ に対して, $a \in U$ ならば $U \cap Y \neq \emptyset$ かつ $U \cap (X \setminus Y) \neq \emptyset$ となることをいう。
2. $a \in (\overline{M})^n$ が X での Y の **weakly boundary point** であるとは, $a \in \overline{X}$, かつ任意の open box $U \subseteq M^n$ に対して, $a \in \overline{U}$ ならば $U \cap Y \neq \emptyset$ かつ $U \cap (X \setminus Y) \neq \emptyset$ となることをいう。

次に, definably connected ([4, 定義 2.2]) および weakly definably connected を定義する。

定義 8. $X \subseteq M^n$ を definable とする。

1. X が **definably connected** であるとは、任意の definable 集合 $Y \subseteq M^n$ に対して $\emptyset \subsetneq Y \subsetneq X$ ならば、 X は X での Y の boundary point を少なくとも一つは含むこととする。
2. X が **weakly definably connected** (または **WDC**) であるとは、任意の definable 集合 $Y \subseteq M^n$ に対して $\emptyset \subsetneq Y \subsetneq X$ ならば、 \overline{X} は X での Y の weakly boundary point を少なくとも一つは含むこととする。

定義 9. $X, Y \subseteq M^n$ を definable かつ $Y \subseteq X$ とする。このとき、 Y が X の **weakly definably connected component** (または **WDC component**) であるとは、 Y が X の極大な weakly definably connected 部分集合になることとする。

補題 10. \mathcal{M} を弱順序極小構造とし、 $C \subseteq M^n$ を k -セルとする。このとき、ある k -セル $D \subseteq M^k$ と definable 同相写像 $f: C \rightarrow D$ と同相写像 $\bar{f}: \overline{C} \rightarrow \overline{D}$ が存在して、 $\bar{f}|_C = f$ が成り立つ。

補題 11. \mathcal{M} を弱順序極小構造とし、 $X, Y \subseteq M^n$ を definable とする。このとき、次が成り立つ。

1. X, Y が weakly definably connected であつ $X \cap Y \neq \emptyset$ ならば、 $X \cup Y$ は weakly definably connected である。
2. $X \subseteq Y \subseteq \text{cl}(X)$ かつ X が weakly definably connected ならば、 Y も weakly definably connected である。

得られた結果は以下の 2 つである。

定理 12. \mathcal{M} を弱順序極小構造とし、 $X \subseteq M^n$ をセルとする。このとき、 X は weakly definably connected である。

定理 13. \mathcal{M} をセル分解を許す弱順序極小構造とし、 $X \subseteq M^n$ を definable とする。このとき、 X は WDC component が有限個だけある。さらに、それらの WDC component は、 X で開かつ閉であり、 X の有限分割になっている。

上記の定理 12 において、 \mathcal{M} が順序極小な場合は、[4] で示されている。また上記の定理 13 において、 \mathcal{M} が順序極小な場合は、[3, p57] で示されている。

参考文献

- [1] M. Coste, An introduction to o-minimal geometry, Dottorato di Ricerca in Matematica, Dip. Mat. Univ. Pisa, Istituti Editoriali e Poligrafici Internazionali (2000).
- [2] M. A. Dickmann, Elimination of quantifiers for ordered valuation rings, *J. Symbolic Logic* 52 (1987) 116–128.
- [3] L. van den Dries, Tame topology and o-minimal structures, Lecture notes series 248, London Math. Soc. Cambridge Univ. Press (1998).
- [4] J. F. Knight, A. Pillay and C. Steinhorn, Definable sets in ordered structures. II, *Trans. Amer. Math. Soc.* 295 (1986) 593–605.
- [5] D. Macpherson, D. Marker and C. Steinhorn, Weakly o-minimal structures and real closed fields, *Trans. Amer. Math. Soc.* 352 (2000) 5435–5483.
- [6] A. Marcja and C. Toffalori, A guide to classical and modern model theory, *Trends in Logic* 19, Kluwer Academic Publishers (2003).
- [7] R. Wencel, Weakly o-minimal non-valuational structures, *Ann. Pure Appl. Logic* 154, no. 3, (2008) 139–162.